



SUPPORTERS CLUB NEWS  
**友の会 会報**  
TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501  
青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94  
七戸町立鷹山宇一記念美術館内  
鷹山宇一記念美術館友の会  
TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860

平成14年度 鷹山宇一記念美術館友の会

**事業計画(案)を検討**

鷹山宇一記念美術館友の会では、役員会を開催して新年度の事業計画を検討してまいりました。  
平成14年度においても美術館の企画展に対する協力をはじめ、様々な活動が計画されています。  
各事業の内容については友の会の通常総会において審議されますが、本年度も会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

**通常総会**  
後日ご案内いたしますが、例年どおり6月上旬の開催を予定しています。  
また本年の美術講演会は総会とは別に日を改め、美術館特別展「東郷青児展」の開催に合わせて予定しています。日程は決まり次第お知らせいたします。

**ボランティア活動**  
平成14年度に美術館で予定されている企画展については本紙News&Reportのページに特集しておりますのでご参照ください。  
友の会会員は毎年、監視ボランティア活動を通じて企画展の運営に協力しております。

**研修旅行**  
毎年、県内外の美術館・博物館を対象に研修旅行を計画し、多くの方のご参加をいただいております。  
本年度は、秋に弘前市立博物館で開催予定の企画展「ミレーとバルビゾン派の画家達」および同時に市内

**基金の積立**  
昨年度美術館に絵画購入資金百万円を寄附いたしました。本年度は、10周年記念事業基金の積立を継続いたします。

**映像資料等の購入**  
一昨年の手塚治虫展、昨年の藤子・F・不二雄展の開催に伴いアニメーションなどの映像資料を購入し、企画展の運営に協力しましたが、本年も有益な各種資料の充実に努めます。

**会報の発行**  
年4回の会報の発行を予定しております。お気軽に原稿等をお寄せ下さい。

で開催される奈良美智展を訪れる予定です。  
そのほかにも機会にに応じて、計画をしていきたいと考えております。

**海外研修旅行の準備**  
平成11年度、初めて実施した海外研修旅行(スペイン)に続き、平成16年のはじめを目前にイタリアルネサンス紀行を企画しました。  
本年は細部の計画を詰めていく予定です。

**財団法人鷹山宇一記念美術振興会**  
**しちのへ活性化大賞受賞**  
平成13年11月3日に行われた、七戸町産業文化まつり開会式において、当美術館の運営主体である財団法人鷹山宇一記念美術振興会が第1回しちのへ活性化大賞を授与されました。  
受賞理由は以下のとおりです。  
「貴財団は我が国でも有名な多くの画伯の企画展を開催し当町の芸術文化の振興発展に大きく寄与され輝く新時代にふさわしい貢献をされました。よってここにしちのへ活性化大賞を贈りこれを賞します。」  
七戸町長 福士孝衛

**友の会海外研修旅行**  
**イタリアルネサンス紀行**  
**忘年会、申込み済**  
計画にあたって、前回のスペイン、パリ美術紀行の経験を踏まえて、検討をしました。  
旅行社で企画したツアーと違って美術愛好者がゆくり美術鑑賞していただけるように日程を組んでおります。また、ホテルのグレードもAクラス以上で交通の便のいい市内に予定しておりますので、年輩の方々でも充分楽しんでいただくと確信しております。  
さらに、ご希望の方にはオプションでオペラ鑑賞も出来ます。全行程食事付き(但し、国内を除く)で、初めての海外旅行の方でも安心して参加できると思います。第一次募集は締め切りでしたが、定員まで若干余裕がありますので、お気軽にお申し込み下さい。  
お待ちしております。

# 吉野毅 彫刻展を 楽しんで

会員 戸館栄一

昨年十二月一日、濱中常務理事ご夫妻、盛田監事ご夫妻とご一緒に東京日本橋高島屋で開催中の吉野先生の彫刻展を拝見することができた。

吉野先生の作品を拝見するとき、何かしら心洗われ、静謐な気持ちにさせられる。かれこれ十年以上先生の作品の一端に接してきたが、最初の時のそのような印象は今もって変わりはしない。鷹山美術館にしばらく展示され、今回の展覧会場正面に展示されている「懐」という作品を見たとき、「ヌーボー・アルカイック」という言葉が浮かんだ。「ヌーボー・アルカイック」という言い方があるのかどうかは定かでない。



ない。古代ギリシャのアルカイックの不思議な雰囲気を感じることから、新しいという意味で「ヌーボー」を頭につけて、一人で心密かにほくそ笑んだ。

展覧会は、あまり大きくないスペースに十数点のこれもあまり大きくないテラコッタ作品が展示されていた。作品は、それぞれ扉、窓、階段、建物の壁に寄りかかるように若い女性がたたずんでいるものが多く、ずつと昔の映画で見たフランソワーズ・アルヌールを思い出させるものもあつたし、神々しい感覚を思い起こさせるものもあつた。彫刻と同じ高さに腰を屈めてじつと見ると、作品の小さな世界から人間世界における不可思議な「関わり」が見えてくる。壁を背にもたれてたたずむ若い女性は何を想っているのだろうか。

恋人を待っているのだろうか。それとも来るはずのない人を待っているのか。かすかな表情からは明快なことは浮かんでこない。

今日、このときの私の気持ちでは、アンニュイだ。一見なにげない日常の一コマとも思える瞬間を捉えて昇華させたこれらの作品は、それ自体独立した意志をもつ作品のように私たちに何かを訴えている。

◆吉野毅先生のプロフィール  
1943年千葉県生まれ。1967年東京芸術大学大学院修了。1974年二科会員になる。1982年二科展ローマ賞受賞。1985年二科展会員努力賞受賞。現在二科会彫刻部会員、評議員。(財)鷹山宇一記念美術振興会理事。



初夏の風に乗せて  
**テオ・ノルテコンサート「風の雲**

〈ギターとフルートのやさしいひびき〉  
ギター 佐藤 俊 さとうたかし  
フルート 松尾光穂子 まつおみほこ  
(ともに盛岡市在住)

◆主な曲目  
シチリアーノ (フォーレ)  
アルハンブラ宮殿の思い出 (タレガ)  
フルートソナタ (バッハ)  
ハンガリー田園幻想曲 (ドップラー)  
※当日変更あり

美術館内ですてきな絵に囲まれた音楽会はいかがですか？ 普段の生活にちよっぴり潤いのあるひとときを、過ごしてみませんか。  
第2回目のテオ・ノルテコンサートを開催いたします。

日時 平成14年7月13日(土) 18時30分開演  
場所 鷹山宇一記念美術館  
料金 2000円(前売券)  
※チケット販売は6月頃を予定。美術館 七戸中央公民館でお求めください。

**お問い合わせ先**  
アニマシオン七戸・盛田 Tel 0176(62)2149  
鷹山宇一記念美術館 Tel 0176(62)5858

▲昨年6月30日に開催されたコンサート風景から

平成14年度  
鷹山宇一記念美術館  
特別展

Menu

第62回国際写真サロン展  
【併催】  
第12回全日本写真連盟関東本部委員展  
'01モデル撮影会入賞作品展  
4/12(金)→4/21(日)

春季二科展  
【併催】  
二科会青森支部展  
4/27(土)→5/26(日)

東郷青児展(仮称)  
7/20(土)→9/16(日)

郷土の作家たち展(仮称)  
10/12(土)→11/4(月)

JQA第2回地球環境  
世界児童画コンテスト優秀作品展  
第2回鷹山賞児童作品展  
11/23(土)→12/15(日)

10:00~17:30(閉館18:00)  
会期中は無休

友の会会員の皆様は  
特典通りご入館いただけます

◆第62回国際写真サロン展

第12回全日本写真連盟関東本部委員展  
2001年モデル撮影会入賞作品展

◆春季二科展

二科会青森支部展

吉野毅「白い風景」(テラコッタ)  
【二科会評議員、彫刻部会員、  
財団法人鷹山宇一記念美術  
振興会理事】

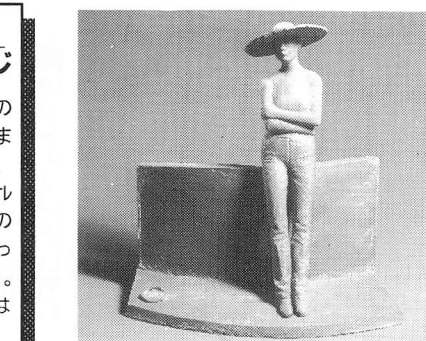
◆東郷青児展(仮称)

安田火災東郷青児美術館所蔵作品

鷹山宇一記念美術館恒例の特別展となりました写真展、国際写真サロン展！国内外、プロ・アマ問わず応募出来る国内では最も権威ある写真コンテスト、その第62回展応募作品6,374点から選ばれた入賞作品全130点を紹介いたします。自然、人物、決定的瞬間などなど、写真による多彩な表現の世界をお楽しみ下さい。

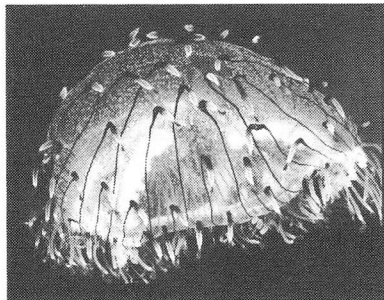
また、会期を同じくして、昨年6月17日に開催されたモデル撮影会の作品による写真コンテストから入賞作品を展示するほか、当館初となる全日本写真連盟関東本部委員の先生方による作品展を併催します。

いよいよこの北の地にも春が巡って参りました。二科会会員による新作、油彩画70余点、彫刻10余点による「春季二科展」の開催です。東京「松屋銀座」での展覧のほか地方での開催は当館のみ。「造詣上の実験的創造」の場として、熟練作家たちが表現の可能性に挑んで制作した作品の数々をお楽しみ下さい。



また併催として、青森県在住で、秋の本展(公募展)「二科展」への出品を行っている「二科会青森支部」同人による絵画展を開催します。

皆様のお越しをお待ちしております。

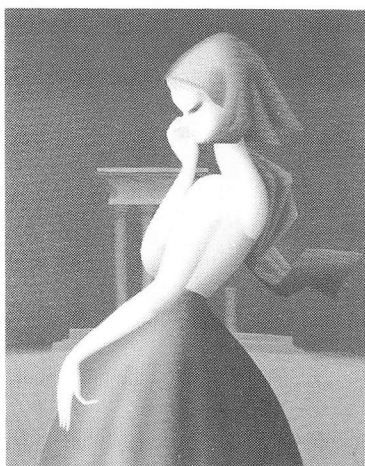


▲審査委員特別賞 花畑重晴『ハガカサケ』(ガラス)

また併催として、青森県在住で、秋の本展(公募展)「二科展」への出品を行っている「二科会青森支部」同人による絵画展を開催します。

皆様のお越しをお待ちしております。

皆様のお越しをお待ちしております。



▶第5回日本国際美術展において大衆賞を受賞した東郷青児「望郷」(油彩・1959年)

鷹山宇一がいます。以降、東郷がこの

ちょっと寄り道!!

美術館から車で約5分! 七戸町・天王のつつじ

「春季二科展」会期中の5月中頃、七戸町の天王神社では「つつじ」がまさに見頃を迎えます。神社は町を見下ろす小高い丘の上にあります。この時期、つつじに覆われた丘全体がピコやれゾッ色に見事に染まります。日中はもちろんのこと夕方アップされた夜も美しいですよ! ちょっと寄り道して足を運んでみてはいかがでしょうか。※見頃の時期は天候によって左右されます。今年は少し早いかな...? ご注意下さいませよう。

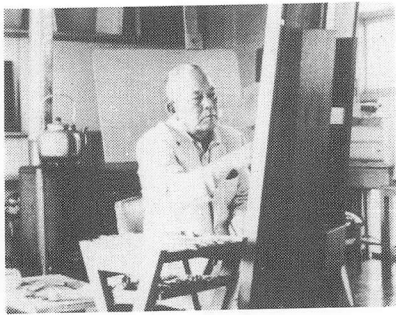
世を去るまで親交は続きま  
した。

本展は、鷹山宇一と二科  
会の仲間たち...と位置づけ、  
鷹山が影響を受けた先達、  
同輩、後輩たちを紹介する  
第一弾として開催するもの  
です。

安田火災東郷青児美術館  
の全面的な協力を得、その  
所蔵作品より初期から最晩  
年までの油彩、素描、彫刻  
の代表作を中心に100余点で  
構成、現代日本の洋画界に  
一時代を築いた偉大な才能  
の軌跡をあらためて紹介し  
ようというものです。

この機会をお見逃しなく、  
東郷芸術を存分にご堪能下  
さい。

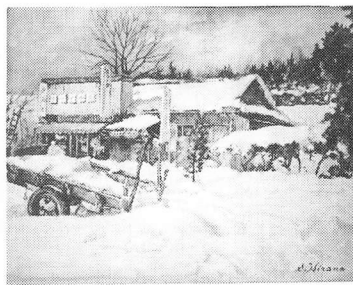
◀キャンパスに向かう東郷青児



※「東郷青児展」郷土の芸術  
家たち展「児童画展」の詳細  
は、次号以降であらためて紹  
介してまいります。

## 郷土の芸術家たち展(仮称) 吉野町100周年記念

平成14年、七戸町は町制  
施行100周年を迎えます。  
本展はこれを記念して開催す



▲平野四郎の水彩色画。七戸町内を  
描いたものと思われま。

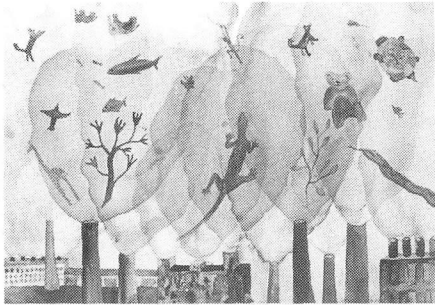
るものです。七戸町には、  
様々な分野における文化的  
な伝統があります。特に絵  
画では、当館収集作家でも  
ある鷹山・鳥谷・平野・上泉と  
誇りうる多くの先人たちが輩  
出してきました。本展では、  
郷土の文化を振り返り、収集  
作家4名による作品と共に、  
現在活躍中の町出身若手ア  
ーティストを招待作家とし  
て、七戸町の100年と未来をア  
ートで紹介いたします。

## 第2回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展

## 第2回鷹山賞児童画作品展

地球環境世界児童画コンテスト  
海外最優秀賞

昨年第1回展に引き続  
き開催する両展覧会。レベ  
ルの高さ、子どもたちの想  
像力の素晴らしさにはあら  
ためて驚かされたものです。  
その待望の第2回展「地球環  
境をテーマとした世界児童画  
コンテストは、前回を上回る  
世界63カ国から15,748  
点もの応募がありました。  
鷹山賞展の公募はいよいよ  
これからですが、果たして  
どのような作品が集まって  
くるのでしょうか？  
それぞれの作品には子ども



■制作者 / Mockeviciu Ieva (15才・リトアニア)

たちのキラキラ輝く個性が表  
現されています。ふたつの児  
童絵画展をお楽しみに！

## 美術館回誌

### 【12月】

- ◇六ヶ所第一中学校PTA10  
名様(こ来館)2日
- ◇倉岡小学校16名様(こ来館  
(5日)
- ◇七彩会油絵教室開催  
(9日)
- ◇鷹山宇一生涯記念日無料  
開館の実施、「遊蝶記」の集  
い開催/七戸養護学校5名  
様(こ来館)10日
- ◇火曜サロン開催(11日)
- ◇(財)鷹山宇一記念美術振  
興会平成13年第4回理事  
会開催/鷹山館長浪岡北  
小学校で講演(15日)
- ◇JQA第1回地球環境世  
界児童画コンテ  
スト優秀作品展  
・第1回鷹山賞  
児童作品展最終  
日(16日)
- ◇展示替え作業の  
ため臨時休館  
(18日~21日)
- ◇高田雨草氏によ  
るお正月飾りを  
設置(27日)
- ◇年末年始休館  
(30日~1月2日)

### 【1月】

- ◇鷹山館長青森市小学校教  
育研究会道徳部会で講演  
(7日)
- ◇上北地方社会教育連絡協  
議会社会教育担当者部会  
「第2回博物館等の広域ネ  
ットワークづくりに関する  
ワーキンググループ」2階  
工房におい  
て開催  
(9日)
- ◇青森放送  
絵馬館を  
取材  
(10日)
- ◇平成13年  
度第5回  
友の会役  
員会開催  
(12日)



▶盛田駿造氏に  
よるお正月飾り  
めでたい鶴と干  
支の馬を折り紙  
で!

### 【2月】

- ◇青森聾学校24名様(こ来館  
(23日)
- ◇「七彩会」油絵教室開催  
(27日)
- ◇あかしや寮19名様(こ来館  
(31日)
- ◇館内整理のため臨時休館  
(1日~8日)
- ◇節分の豆まきを実施  
(3日)
- ◇鷹山館長(東北電力暮らし  
と電気の会)で講演(6日)
- ◇鷹山館長西野小・中学校  
閉校式に出席/「七彩会」  
油絵教室開催(17日)



▶「福は内!」と、年女によつて  
まかれた豆を「美術館に福があ  
りますよう...」念じて一生  
懸命に拾う美術館関係者ら。



▶高田雨草氏によるお正月飾り

## 父

## 鷹山宇一を語る

美術館館長

## 鷹山ひばり

母方の祖父母が、芸術についてどのくらい理解があったかわかりませんが、大切な一人娘を嫁がせ、父を「先生」と呼び大事にしておりました。特に母の兄弟は父に一目も二目も置き、秋になると二科展に出品する作品を誇らしげにリヤカーに乗せて、本郷の家から上野の美術館に運んでいました。上野に持っていく前に、出来上がったばかりの作品を、家族、親類、近所の人々が囲んで、父が、「恥ずかしくなる」と頭をかかえるほど称賛しておりました。子供心にも、父は大変立派な人なのだと尊敬していましたが、母の家族がこぞって父を敬愛し大切にしていたからだと、今でもその時の情景が目には浮かびます。母のすぐ下の叔父は、戦後父に出ていた外食切符で雑炊を食べて早稲田に通

いました。「食べ盛りの者が食わなくてどうする」と云って外食切符を渡した父から、「物が無い時代の情の深さを教えてもらった」と叔父はよく話をしてくれました。

私が物心ついた頃には、母方の祖父母、曾祖母、三人の伯叔父たちと私共家族五人の大家族で生活していました。一人娘だった母は、詩歌や美術を愛する文学少女でしたが、使用人が何人もいたため、家事が何一つ出来ませんでした。

鎌倉文士の訳有りの家で新婚生活を始めた父は、米を研ぐすべさえ知らない十六歳下の新妻に音を上げ、三日で母の実家に逃げ込みました。若さと美貌に眼が眩んだ父は、代償としてその後の人生に気の毒なくらい大きな負い目を背負うはめになりました。

私が小学生の頃、祖母一家が文京区根津に移り住み、私共家族だけになり、朝から何も無い母に代わって父が朝食の仕度をしていました。

毎朝、台所から味噌汁の匂いと共に「♪船頭さん今年六十のお祖父さ

ん・ソレエツチラコツチラエツチラコー」と父が唄う歌が流れてくると、私共三姉妹は、寝床から起き出しました。

父は、冬の寒い日には、炬燵の中に洋服を暖めておいてくれ、私達娘三人は布団から出るとすぐ炬燵にもぐり込みました。毎朝新しい下着も用意されていて、汚れ物も父が洗濯していました。小さい頃から不思議に思っていたのは、我が家には何でも一番最初に電化製品が入っていたことでした。

今考えてみれば、父が自分で使うために、掃除機も洗濯機も電気釜も買ってもらっていたとわかり可笑しくなります。



昭和25年頃の

鷹山宇一先生と

ひばり館長

家事は、男親の仕事と思い込んでいた私達は、父の日の作文に炊事、洗濯をしている父の姿を書いていました。血液型がA型の几帳面な父は、埃が絵につくと云って毎朝きちんと拭き掃除をしていました。整理整頓ができていた小綺麗な父のアトリエには、鉄や糊が所定の位置にいつもおさまっており、すぐに借りることができました。必要な物がすぐに見つかる父のアトリエは、私達三姉妹の家づくりの原点になりました。

私が五年生の時に隣家のアパートから失火がありました。夕方母が買い物に出かけていて、家には妹たちと私の三人だけしかいませんでした。家の回りが騒がしくなり火事だとわかると、妹たちにランドセルを背負わせ、貴重品が入っている母のバッグを片手に玄関に佇んでいました。そこに血相をかえた父が帰ってきたので安堵しましたが、父は娘たちを残し自分の洋服だけをもって早々と避難してしまいました。

入れかわりに買い物カゴを途中で放り投げて走った帰ってきた母は、無事な私達をみて泣きながら外に連れ出して抱きしめてくれました。

男親と女親の違いがはつきりとわかった事件でした。

それでも父は学校が休みに入るとよくディズニの映画を見せてくれました。今から四十年以上も前の映画は、まだモノクロのものも多く、ディズニー映画の総天然色は夢を見ているような美しさでした。「白雪姫」「バンビ」「101匹ワンちゃん」「ミツキーの魔法使い」などを見た帰りに、上野の「精養軒」や本郷の「白十字」でフランス料理を食べる、楽しく嬉しい一日をつくってくれました。

東京タワーに初めて登った時は、高所恐怖症の父は真っ青の顔をして座り込んでしまい、ソファーまで皆で運びましたが、今度は横に置いてある水槽が揺れていると云って気を失いそうになりました。地下の食堂でビールを飲んでやっと正気にもどった父は、もう二度と東京タワーにはこないと言いました。

つくになくなった都電の「本郷肴町」と「白山上」のすぐそばにあり、父はよくその都電に乗って後樂園競輪に行っていました。若いときから賭け麻雀や賭け将棋が好きだった父は、競輪の開催日が近づくとソワソワして予想紙を買い求め研究をしていました。

競輪、競馬、オートレースで勝つと、池袋の「西武」や、今はもうなくなった「丸物」にいった「台所用品」や、「夕食用の肉」を買って帰って来ます。アパートで雑貨や地下の食料品を見て廻る姿を思い浮かべると、何とも云えずおかしくなりますが、そんな家庭的な父が懐かしく、今、思い出しても幸せだった日々ばかりです。

美濃部都知事になってから都営ギャンブルが廃止され、後樂園で競輪が開催されることがなくなり、東京ドームに姿が変わりました。

父もアキラメがついたのではないかと思います。「本郷も「かねやす」までは江戸の内」と川柳にうたわれたように私共が住んでいた「肴町」は

下町の匂いのするところ  
でした。

本郷通りを挟んだ向こう側には落語家の円生師匠が住んでいました。当時内風呂がある家は稀で、仕事が終わると銭湯につかってその日の疲れをとっていました。昼すぎの三時頃になると、年寄りや子供、早朝から仕事をしてきた職人達が手ぬぐいに石けんを裸のまま包んで、銭湯の暖簾をくぐります。背中に見事な「昇り龍」の刺青をしている大工の棟梁や、「こぼれ松葉も二人連れ」と、左腕の真っ白なやわ肌に彫りものをしていた芸者の姉さんによく会いました。

その早い時間帯に円生師匠の弟子たちが銭湯客相手に落語の稽古をはじめます。  
夏は涼しい脱衣場で、冬は洗い場の真中で「一席つまらない話を——」と始めると、「声が小さい」「訛るな」と客たちが叱咤をしますが、帰りがけに「アンちゃん頑張れよ」と云っていくらかの煙草銭を渡して激励していました。

父に連れられて男湯に入りこの様な光景をいつ

も見ていました。市井の文化がどのように育ち守られていくのかを、父は噛み砕いた言葉で教えてくれ、人情の機微にふれる寄席好きのきつかけをつくってくれました。  
小股の切れ上がった「姉さん」たちが沢山住んでいた仕舞屋(しもたや)の前を通ると三味線の音が聞こえ、夜には新内流しがやってくる東京の古き良き時代のころでした。

【第一部 了】



イタリアの風景

撮影 和田聖子氏

訃報

佐藤米次郎氏

平成13年6月22日午前8時50分、心不全のため、青森市内の病院で死去。86歳。旧制青森中時代の昭和6年ごろから版画を始め、棟方志功が創立した日本版画院展を中心に作品を発表した。80年に県文化賞、83年に第一回地域文化功労者文部大臣賞を受賞した。

七戸町に在住したこともあり、96年七戸町教育委員会と美術館との共催による美術講演会で、鷹山先生との交流を語られた。

舟越保武氏

3月5日午後9時3分、多臓器不全のため、東京都世田谷区内の病院で死去。89歳。盛岡市出身。  
盛岡中学、東京美術学校卒。東京芸大名誉教授。1962年「長崎26殉教者記念像」で高村光太郎賞、71年には「原の城」で中原悌二郎賞、78年には個展の一連の作品で芸術選奨文部大臣賞を受け、99年文化功労者を受章。

昨年開館の岩手県立美術館に同氏の展示室が開設され、「ダミアン神父」などの作品が展示されている。



▶96年3月、講演会終了後佐藤先生(前列中央)を囲んで

編集後記

心の豊かさ、今年の四月からゆとり教育として、教育改革がスタートします。三人の子供の母親の立場で思うに、子供は親の不安定な感情をよく読みとります。私は、常日頃、毎日の雑多に埋もれてしまいそうになると思ふに、美術館に来た、館長はじめ職員の方々と雑談したり展示している作品を鑑賞したりして気分転換をしています。まず、大人が心にゆとりを持てたいものです。

編集係 M・O